

国際金融部会の部会運営

明治学院大学 佐々木百合

1. 最近の国際金融部会運営について

国際金融部会の2014年度からの10年間の部会運営を振り返ると、初めは関東は一橋大学小川英治先生から引継いだ明治学院大学佐々木百合（現代表幹事）と神戸大学藤田誠一先生から引き継いだ神戸大学岩壺健太郎先生が幹事をしていましたが、途中で岩壺先生が神戸大学北野重人先生（現会計幹事）と交代し、その後、中央大学吉見太洋先生と滋賀大学吉田裕司先生に幹事に入っていた。さらに、2023年度より武蔵野大学の田中茉莉子先生、立教大学の山本周吾先生を幹事に迎え、2024年度からは新体制として代表幹事を吉見太洋として運営していく予定である。

部会は、毎年度、関東と関西で一回ずつ定例を開催しているが、年度によっては3回以上開催している。定例の部会は、報告者を募って、希望者のなかから2-3名のかたに依頼して報告をしていただく形をとっている。終了後には懇親会を開催し、報告内容について議論したり、日頃の研究について情報交換を行っている。また、他研究会と共催という形でも開催している。

国際金融部会では、年次大会で国際金融パネルを主催したり、共通論題を提供したりしてきた。国際金融パネルでは、国際金融にまつわる様々なテーマをとりあげて、大学の研究者だけではなく、金融庁や日銀、研究機関のエコノミストの方などにもご参加いただき有意義な討論を行っている。

2. 2014~23年度開催部会

2014年から2023年度にかけての国際金融部会は、以下の研究会を開催した。

2014年1月（明治学院大学白金キャンパス）

報告者：田中茉莉子（明海大学）「通貨交換のミクロ的基礎」、大野弘明（明治学院大学）
「Volatility, Market Integration, and Growth」

2014年4月（龍谷大学大阪梅田キャンパス）

報告者：大重 斉（成蹊大学）「Impact of China's Slowdown on the Asia-Pacific Regions: an application of the GVAR model」、小笠原悟（大分大学）「世界金融危機と国際資本フローの変化」、竹中正治（龍谷大学）「グローバル金融市場のリスク度を測る ～IIMA-GMVI指標の試み～」

2015年2月（明治学院大学白金キャンパス）

報告者：中島真志（麗澤大学）「外為決済における時差リスクの削減に向けて－CLS銀行の

役割を中心に」、北野重人（神戸大学）「Capital Control, Monetary Policy, and Financial Accelerator in a Small Open Economy」

2015年4月（同志社大学大阪サテライトオフィス）

報告者：五百旗頭真吾（同志社大学）「Do Faster Growing Economies Run Current Account Deficits? A Theoretical Reappraisal of the Role of Utility Functions」、金子寿太郎（公的金融機関）「二国間金融技術協力にかかるケーススタディー タイの中小企業金融インフラ整備に向けた日本の政策支援」、朝倉達也（国際金融情報センター）「米国金融規制に対する米銀の対応と我が国銀行セクターへのインパクト」

2015年11月（専修大学神田校舎）；専修大学商学研究所との共催

報告者：渡辺哲也（経済産業省）「TPP 大筋合意－世界はどう変わるのか」

2016年2月（明治学院大学白金キャンパス）

報告者：佐藤秀樹（金沢大学）「欧州銀行同盟の方法－ ECB ・ EBA ・ FSB の関係を中心に」、吉野直行（アジア開発銀行研究所）「Dynamic Effects of Changes in the Exchange Rate System (coauthored with Sahoko Kaji, and Tamon Asonuma)」

2016年4月（立命館大学大阪いばらぎキャンパス）

報告者：熊倉正修（駒澤大学）「日本の金融通貨政策と財政ファイナンス」、鈴木佳子（ロイター通信）「2015年のジャパン・プレミアム：円投／ドル転スワップのベースス拡大の構造的要因に関する考察」、平田英明（法政大学）「Emerging Stock Market Comovements and Third-Country Effects」

2017年4月（関西大学梅田キャンパス）

報告者：張 南（広島修道大学）「Measuring Global Flow of Funds: Statistical Framework, Data Sources and a Country Case」、西村陽造（立命館大学）「金融面からみた中国リスクと日本の対応」、高屋定美（関西大学）「欧州のマイナス金利政策からの教訓」

2018年4月（龍谷大学大阪梅田キャンパス）

報告者：星河武志（近畿大学）「Demand for the dollar as an international currency」、西村陽造（立命館大学）「東アジアの通貨・金融協力の最適な緊密度を探る～ユーロ危機の教訓を踏まえて～」、中島真志（麗澤大学）「仮想通貨の将来性」

2019年3月（明治学院大学白金キャンパス）

報告者：増島雄樹（ブルームバーグ）「Time-Variant Safe-haven Currency Status and

Determinants」、吉見太洋（中央大学）「Unemployment in a Balassa-Samuelson Model with Heterogeneous Job Separations」

2019年4月（神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ）

報告者：増島雄樹（ブルームバーグ）「The Shifting Drivers of Exchange Rates: Uncertainty, Interest Rate Parity, and Internationalization」、江阪太郎・藤井隆雄（神戸市外国語大学）

「Evaluating the effectiveness of foreign exchange intervention using counterfactual analysis: Evidence from Japanese intervention episodes, 2010-2011」、吉田裕司（滋賀大学）

「International Portfolio Rebalancing and Equity Market Spillovers」

2020年7月（ZOOM Webinar）

報告者：中尾武彦（みずほ総合研究所理事長）「アジアの発展の歴史と現代への含意～いまアジアコンセンサスを考える」

2021年3月（ZOOM Webinar）

報告者：羅 鵬飛（摂南大学）「Macroeconomic Effects of Global Policy and Financial Risks in 1997-2020」、後藤瑞貴（一橋大学大学院）「企業レベル実効為替レートとエクスポージャー」

2021年7月（ZOOM Webinar）；神戸大学金融研究会／神戸大学経済経営研究所国際金融研究部会との共催

報告者：秀島弘高（農林中央金庫）「国際金融規制改革のインプリケーション」

2022年3月（ZOOM Webinar）

報告者：氷見野良三（元金融庁長官・東京大学客員教授）「金融危機の国際比較」

2022年8月（神戸大学）；藤田誠一先生 退職記念研究会、神戸大学金融研究会／神戸大学経済経営研究所国際金融部会／兼松セミナーとの共催

座長：高濱光信（明治大学）

報告者：ヴィエシボフスカ アガタ（神戸大学）「Financial Development, Banking Sector and Economic Growth in the EU Countries during Recent Crises」、星河武志（近畿大学）

「ポートフォリオの側面から金利平価へのアプローチ」、五百旗頭真吾（同志社大学）「対外直接投資と日本の経常収支」

2023年3月（明治学院大学白金キャンパス／ZOOM Webinar）

報告者：小川 健（専修大学）「テザーの法定通貨化」、羅 鵬飛（摂南大学）「コロナ・ショック後のアジア諸国の金融政策と為替レート」

2023年6月（神戸大学経済経営研究所）；神戸大学金融研究会／経済経営研究所 国際金融研究部会／RIEB セミナーとの共催

報告者：中山 興（日本銀行）「国際的な統計整備の潮流」

2023年7月（立教大学池袋キャンパス／ZOOM Webinar）；立教大学経済研究所との共催

報告者：伊藤宏之（Portland State University、立教大学2023年度招聘研究員）「世界的インフレーションと先進国」（7月1日）、「再び新興国発の金融危機は起こりうるか？」（7月8日）

2024年3月（武蔵野大学有明キャンパス／対面とオンライン（Zoom）のハイブリッド）

報告者：吉野直行氏（慶応義塾大学経済学部名誉教授/金融庁金融研究センター長/東京都立大学経済経営学部特任教授）「国内/海外の国債市場を通じた財政安定化条件に関する国際比較（日本/ギリシャ/中国）」、大田英明氏（立命館大学国際関係学部・研究科教授）「不適切な IMF プログラムと増加する卒業国」、丸尾優士氏（日本銀行企画局政策企画課企画役）「均衡としての「法外な特権」 — 「特権」は永続するか？ —」

3. 2014～23年度国際金融パネル

2014年から2023年度にかけて、以下の国際金融パネル。共通論題を提供した。

- 2014年度秋 国際金融パネル「邦銀のアジア進出」
- 2016年度春 国際金融パネル「FX 証拠金取引の実際と課題」
- 2016年度秋 国際金融パネル「国際マネーフローの変調と新興国債務問題」
- 2017年度春 国際金融パネル「中国・アセアン経済の行方とアジアの金融・通貨秩序」
- 2018年度春 国際金融パネル「国際決済・国際送金の現状と展望」
- 2018年度秋 国際金融パネル「BREXIT と国際金融センター「シティ」の将来」
- 2019年度春 国際金融パネル「AI と資産運用」
- 2019年度秋 国際金融パネル「昨今の新興国の資金フローと金融システム」
- 2020年度秋 国際金融パネル「コロナ・ショックと国際金融市場」
- 2021年度秋 共通論題「LIBOR 廃止問題」
- 2022年度秋 国際金融パネル「原油価格高騰、世界インフレ、円安：日本経済への波及」
- 2023年度春 国際金融パネル「為替相場とインフレ：円安がインフレを招いたのか」

以上